

2023年1月24日

## MURC Focus

# 2022年の中国の対口貿易動向

## ～ロシアとの貿易の中心は化石燃料の輸入

調査部 副主任研究員 土田 陽介

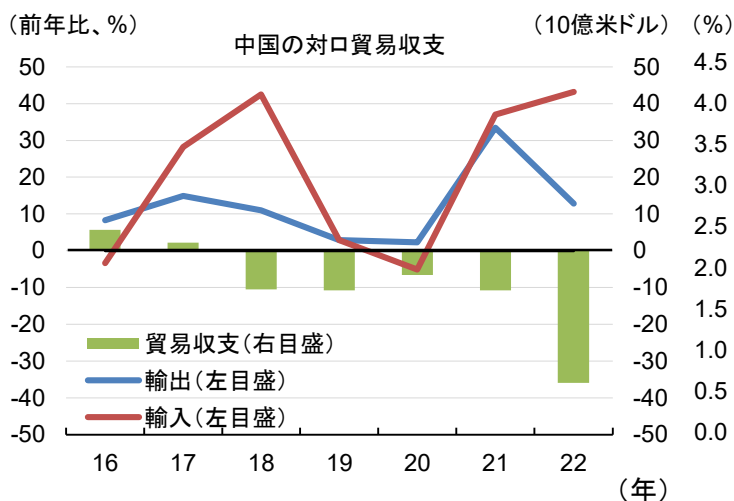
- 中国海関総署によると、2022年の中国の対口貿易総額は1,885億米ドルと前年から29.2%増加した。全体の貿易総額の伸びが4.5%増だったことを考慮すると、中国のロシア向け貿易は堅調と評価される。
- 一方、輸出よりも輸入が好調だったことを受けて、2022年の中国の対口貿易収支は▲360億米ドルとなり、赤字幅が前年(▲108億米ドル)から3倍以上も拡大した。
- 今後も中国の対口貿易は、化石燃料の輸入を中心に拡大基調で推移すると考えられる。輸出についても増加は見込まれるが、それは政治的な動機よりも経済的な要因に基づくものだろう。

### (1) 3割増えた中国の対口貿易額

中国海関総署によると、2022年の中国の対口貿易総額は1,885億米ドルと前年から29.2%増加した。全体の貿易総額の伸びが4.5%増だったことを考慮すると、中国のロシア向け貿易は堅調と評価される。特に好調だったのが輸入であり、前年比43.2%増と2021年(同37.0%増)から伸びが加速した(図表1)。一方で輸出は同12.8%増と、前年(33.5%増)から伸びが鈍化した。

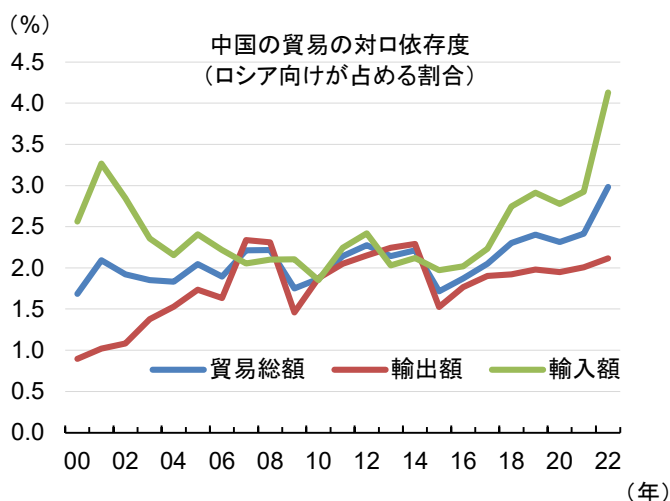
輸出よりも輸入が好調だったことを受けて、2022年の中国の対口貿易収支は▲360億米ドルとなり、赤字幅が前年(▲108億米ドル)から3倍以上も拡大した。また2022年における中国の貿易の対口依存度も、輸入ベースで4.1%と前年(2.9%)から急上昇した(図表2)。つまり、中国の対口貿易は2022年に急拡大したが、そのけん引役は輸入だったことが分かる。

図表1. 拡大した中国の対口貿易赤字



(出所) 中国海関総署

図表2. 対口貿易のけん引役は輸入

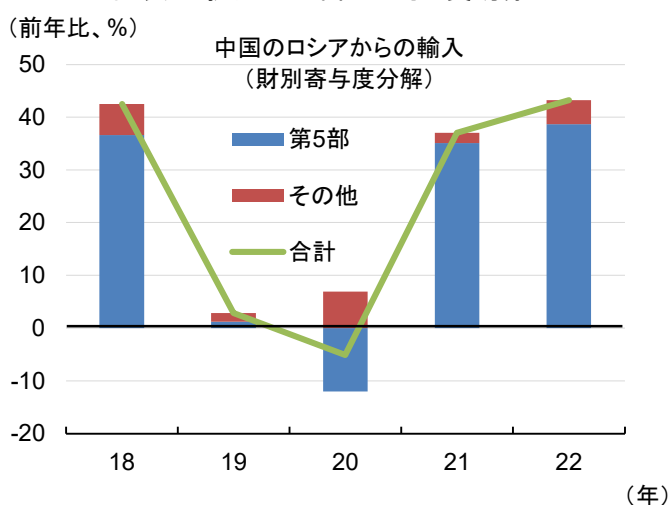


(出所) 中国海関総署

中国のロシアからの輸入額の増減率を財別（HSコード）に寄与度分解すると、中国の輸入増加のほとんどを占めたのは第5部（鉱物性生産品）である。その中でも第27類（鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物、歴青物質並びに鉱物性ろう）が8割程度（2022年で第5部の74.3%）を占めており、ロシアからの輸入のほとんどが原油を含む石油製品だったことが分かる。

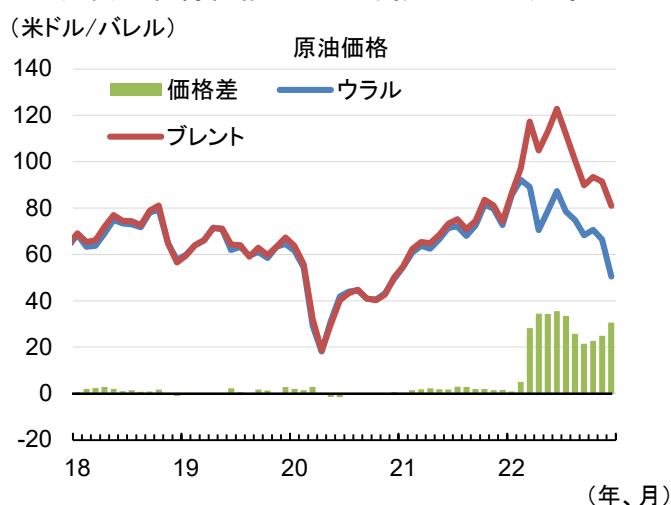
ロシア産原油の価格（ウラル価格）は、国際指標であるブレント原油価格に比べて安価な状況が続いている（図表4）。ロシアのウクライナへの侵攻を非難する欧米とは異なり、中国はロシアと友好関係を維持しているため、価格が安いこともあり、ロシア産原油を引き受けていると指摘されてきた。そのことが統計的にも確認されたことになる。

図表3. 拡大した中国の対ロ貿易赤字



(注) 第5部は鉱物性生産品  
(出所) 中国海関総署

図表4. 国際価格に比べて割安なロシア産原油



(出所) ロシア財務省、米エネルギー情報局

## (2) 1割増にとどまった中国の対ロ輸出

他方で、中国のロシアに対する輸出の増減率を財別（HSコード）に寄与度分解すると、対ロ輸出をけん引したのは、寄与率順に第6部（化学工業（類似の工業を含む。）の生産品）、第17部（車両、航空機、船舶及び輸送機器関連品）、第7部（プラスチック及びゴム並びにこれらの製品）、第16部（機械類及び電気機器並びにこれらの部分品並びに録音機など）だった（図表5）。

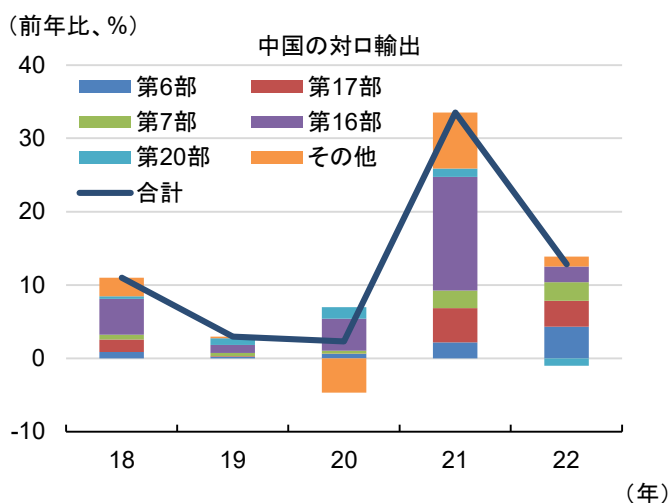
第6部（化学工業（類似の工業を含む。）の生産品）のうち、堅調だったのは第29類（有機化学品）と第38類（各種の化学工業生産品）、第28類（無機化学品及び貴金属、希土類金属、放射性元素又は同位元素の無機又は有機の化合物）だった。第16部では、第85類（電気機器及びその部分品など）が堅調だった。この第85類には「半導体」が含まれている。

中国のロシア向け輸出が、他国向けと比べてどれくらい堅調だったのかを分析したものが図表6となる。これによれば、対ロ向け輸出総額の増勢は世界向け輸出総額に比べて5.4%ポイント高

かった。部門別には、第6部（化学工業品等）と第7部（プラスチック等）、そして第17部（車両等）について、対ロ輸出が他国と比べても堅調だった。

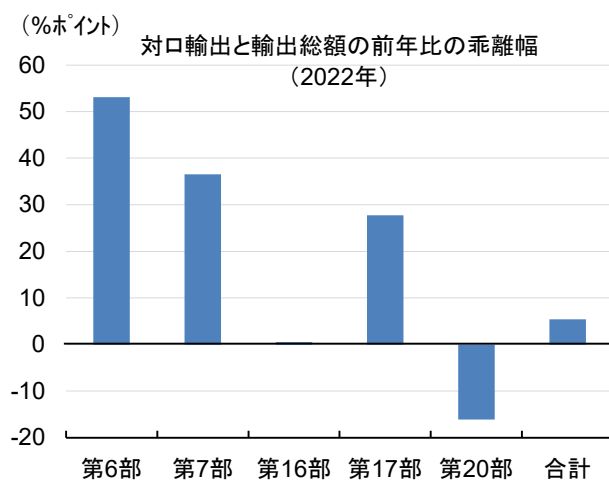
一方、半導体が含まれる第16部は0.5%ポイント増と、世界向け輸出とほとんど変わらなかった。半導体の輸出動向については、さらに統計の詳細を分析する必要があるものの、中国がロシアでの完成品の生産に必要な半導体に関して、ロシア向けの輸出を他国向けよりも優先した可能性は低いのではないだろうか。

図表5. 化学工業品がけん引するロシアへの輸出



(注) 寄与率が上位5位の項目で作成した。  
(出所) 中国海関総署

図表6. 化学品の対ロ輸出は他国向けより堅調



(注) この乖離幅がプラスに大きいほど、ロシア向け輸出が世界向け輸出よりも増勢が強いことを意味する。  
(出所) 中国海関総署

### (3) ロシアの生産を完全に支えるには至らず

2022年の中国の対ロ貿易動向をまとめると、貿易全体は堅調に増加したが、それは主にロシアから化石燃料の輸入急増によるものだった。一方で輸出も増加したが、その勢いは輸入に比べると限定的だった。またロシア向け輸出をけん引した財は化学工業品やプラスチック品、車両等であり、ロシアでの完成品の生産に必要な半導体が急増した可能性は低いだろう。

ロシア経済の視点から見ると、対中輸出の急増は潤沢な外貨収入（おそらく人民元）につながったと考えられる。他方で、中国からの輸入に関しては、以下のような評価となる。ウクライナ侵攻前の2020年時点でロシアの輸入総額の半分を占めたヨーロッパからの輸入は、2022年に概ね4割減少した。一方で、3割弱だった中国からの輸入は、1割増にとどまった。

それに、ヨーロッパからの輸入の減少が中間財や資本財の広範にわたるのに比べて、中国からの輸入の増加は化学品と一部工業品にとどまっている。中国からの輸入の増加がヨーロッパからの輸入の減少の一部を補ったことは確かだろう。とはいえ、少なくとも中国からの輸入増だけでは、ヨーロッパからの輸入減を完全には代替できていない。

経済・金融制裁が強化されたことで、ロシアが30年をかけて築き上げてきたヨーロッパとの間のサプライチェーンは寸断されることになった。ロシアは中国など新興国との間で新たなサプライチェーンの構築を模索しているが、それに時間を要することは当然である。それが成功するとしても、十年単位の歳月を要するだろう。

中国側としても、ロシアとの経済協力関係を進化させるとして、それは中国の国益に適う範囲にとどまると考えられる。いずれにせよ、今後も中国の対ロ貿易は、化石燃料の輸入を中心に拡大基調で推移すると考えられる。輸出も増加すると見込まれるが、それは政治的な動機よりも経済的な要因に基づくはずである。

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。